

# 大学スポーツの在り方 (大学スポーツとライフスキル)

平成21年2月28日

NPO法人神戸アスリートタウンクラブ

トータルパーソンプログラム

ファシリテータ 吉田 良治

# ライフスキルとは

## ライフスキルの定義

- 複雑で困難な課題に満ちた社会の中で成功し、直面する多くの問題を効果的に取り扱うのに必要とされる、一般的な個人および社会的能力（コーネル医科大学のボトヴィン）
- 日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会能力（WHO精神保健部局ライフスキルプロジェクト）

# WHOが定義したライフスキルの構成

- 自己認識
- 共感性
- 効果的コミュニケーションスキル
- 対人関係スキル
- 意志決定スキル
- 問題解決スキル
- 創造的思考
- 批判的思考
- 感情対処
- ストレス対処

# 内的要因と外的要因

- 1. 内的的要因→意思決定・問題解決・創造的志向・批判的志向・効果的コミュニケーション・対人関係スキル・自己認識・共感性・感情のコントロール・ストレスマネジメント  
人間として精神的な成長→本来のライフスキルのテーマ
- 2. 外的要因解決→薬物・思春期妊娠・知的能力の向上・いじめ・飲酒・喫煙・暴力・エイズなどヘルスプロモーション  
社会生活における外的な要因とのかかわり  
生活習慣上の問題→時代の変化への対処

# アメリカの学生スポーツの価値

- ・スポーツで成功するのはごく一部
- ・スポーツで活躍できる時期は短い
- ・長い人生をどう生き抜くか！

## トム オズボーンズ ネブラスカ大学元ヘッドコーチの意識改革

- 勝率80%、全米チャンピオン3度、30年連続9勝以上、30年連続ボウルゲーム出場
- NFLへ進んだプレイヤーのキャリア教育の欠落により、一般社会への順応ができない事実
- NFL平均キャリア2,3年で、その後の人生計画ができない事実
- NFL選手の家崩壊=離婚率の増加
- 大学での学業面のサポート不足を痛感
- 対人関係構築の欠落
- ETC...



スポーツを引退した後の人生設計の支援=一般社会への適応

**スポーツの得点よりも重要！**

# アメリカのスポーツキャリア

Student-Athletes	Men's Basketball	Women's Basketball	Football	Beasball	Men's Ice Hockey	Men's Soccer
High-School Student-Athletes	549,500	456,900	983,600	455,300	29,900	321,400
High-School (S) Student-Athletes	157,000	130,500	281,000	131,100	8,500	91,800
NCAA Student-Athletes	15,700	14,400	56,500	25,700	3,700	18,200
NCAA Freshman Roster Positions	4,500	4,100	16,200	7,300	1,100	5,200
NCAA (S) Student-Athletes	3,500	3,200	12,600	5,700	800	4,100
NCAA Student-Athletes Drafted	44	32	250	600	33	76
Percent High School to NCAA	2.9	3.1	5.8	5.6	12.9	5.7
Percent NCAA to Professional	1.3	1.0	2.0	10.5	4.1	1.9
Percent High School to Professional	0.03	0.02	0.09	0.5	0.4	0.08



## 1980年代アメリカの社会背景

- アメリカ経済の低迷
- 治安の悪化
- 個人主義による対人関係の崩壊

## 1980年代大学スポーツの抱える問題！

- スタジアムのロッカールームでの発砲事件
- 大学スポーツ選手の間でのドラッグの蔓延
- スポーツ推薦で入学した、学業成績の悪い学生が存在
- 大学付近での治安の悪化

## Three Basic Dimensions

# 学生スポーツを構成する3つの定義（徳育・知育・体育）

**Athletic Excellence**  
スポーツでの達成

**Academic Excellence**  
学業での達成

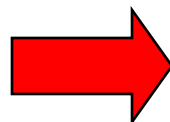
**Personal Development**  
人間的な成長

# 今のアメリカは？ —ジョージア工科大学の事例—

- **学生スポーツ選手の卒業率**  
30%台(1981年)→80%台(2002年)
- **学生スポーツ選手のGPA(平均成績値)**  
スポーツ選手→2.86 全学生平均→2.93
- **大学の学術レベルは全米の大学で30位台**
- **スポーツ選手の学生の卒業後の就職が安定**
- **アメフト、バスケット、野球、ゴルフで全米ナンバー1に！**
- **オリンピックで4つのゴールドメダルを獲得**
- **凶悪犯罪の減少と町の治安が安定**

# ジョージア工科大学から全米の大学へ普及

トータルパーソン  
プログラム



全米の大学教育プログラムへ発展  
(全米200大学以上で採用)



NCAAのChamps Life  
SkillsProgramのモデルとなる

- **トータルパーソンプログラムとは……**
- 本来大学における高等/専門教育だけでは解決できない様々な問題、実社会と大学教育との大きなギャップを埋める役割を持っている
- 主にアメリカの大学のスポーツ教育において、心と魂と体の成長バランスの取れた人間形成教育として広く導入
- 今日一般の大学生へも適応され、学生達が大学を卒業後の人生において、またアメリカ社会の中でなくてはならない大学教育プログラムとして発展

# ジョージア工科大学ホーマーライス氏の取り組み

トータルパーソンプログラムとは、ジョージア工科大学体育局長 ホーマー ライス博士により考案された、学生アスリートが、学生時代のスポーツだけでなく、大学卒業後の生活において様々な分野へ進んでも、成功する為に必要な要素として、バランスの良い人間的な成長を考えて作られたものです。

全米177大学(現在は200大学)以上で採用され、後にNCAA(全米大学体育協会)が考案したチャンプス/ライフスキルプログラム(NCAA加盟約500大学が活用中)の基礎/モデルとなったものが、トータルパーソンプログラムです。

このプログラムでは学生アスリートに要求されるフィールドでのパフォーマンスだけでなく、本分である学業を優先した取り組み、地域社会との連携等、卒業後の生活で生かすことができるものを漏れなく取り入れられています。

ホーマー ライス博士は高校、大学、NFLなどでヘッドコーチを歴任し、複数の大学体育局長を経験されました。NFLシンシナティベンガルズでヘッドコーチ職在任中、当時ジョージア工科大学総長からの要請に応え、サラリーが半減する裏方的な仕事である体育局長となり、当時全米最低ランクの大学スポーツ組織をワールドクラスのトップアスリート集団としてまた、マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア工科大学に次ぐアメリカ理系大学トップクラスの教育プログラムを修得した、今日アメリカを支えるリーダーを数多く輩出に貢献しました。

アトランタオリンピック招致活動にも参加し、ジョージア工科大学内にオリンピック競技プールを含む複数の施設を建設、オリンピック閉幕後は競技施設を大学の施設として有効利用、学内に建設した選手宿泊施設も、閉幕後に学生寮として運用するなど、画期的なプランを持って、多くの企業から資金的な支援を獲得し、建設・運営を成功させました。名実ともにジョージア工科大学トータルパーソンプログラムが、ワールドクラスとして認められた瞬間です。

## スポーツ参加の例

- シーズン制(フットボールの場合9-11月のみ)
- 20時間ルール(ミーティングを含め週20時間以上スポーツに参加できない)
- GPA 2.0ルール(学業成績2.0以下はスポーツ活動に参加できない)
- ギャンブルについて(You Bet, You Lose!)
- 特別な利益の授受の禁止
- チームルールの厳守
- アルコール、タバコ、ドラッグのルール
- Sexに関するルール
- マスコミとのかかわり



# 人材育成 スポーツの果たすべき役割



# アメリカにおけるライフスキルプログラムのあり方

- ・ 1. 多民族国家が抱える問題→ビジネススキル、社員研修としての扱い
- ・ 2. 社会生活上の問題→学校教育における思春期以前の青少年教育
- ・ 3. 大学スポーツ界にとってのライフスキルとは、社会的ロールモデルとして人格形成=**自律**（一般的なライフスキルレベル）



卒業後の社会的影響と効果=**自立**

（アメリカの大学スポーツにおけるライフスキル）



トータルパーソン（全人教育）=自立を超えた豊かな社会を実現するリーダーの育成

## スポーツの価値

- スポーツは若者の自尊心を養う上で、重要な鍵となる役割を担っています。

『スポーツは世界中共通して、国境などの偏りや偏見や差別を持ちません。スポーツには、より大きな夢の共有、自分達が育った歴史・考え方や価値観の違いを尊重することができます。』

相手を心から受け入れることができるスポーツ、人類共通のすばらしい贈り物の一つです。』

# アメリカンフットボールコーチ協会の取り組み AFCA

- 会員コーチの研修
- 学生アスリート(高校、大学)への活動支援 (Good Works Team)
- 合衆国・州政府・企業との連携した取り組み
  - 1) FBIなどと子どもの行方不明防止(毎年年間80万人が行方不明)
  - 2) 支援団体や州との連携で若者の自殺防止活動

21大学のコーチが年俸200万ドル以上、複数年契約！  
その価値とは？

## Principles for the Master Coach

- コーチの仕事は若者を成功へ導くことだ。
- もしあなたがこの国で最も優れたコーチと思えないなら、この仕事をする必要はない。なぜならあなたは税金を無駄にしているのだから。
- もしあなたがコーチをするなら、この国にとって大切な役割を果たせると、胸を張って引き受けなさい。
- あなたは自分のモチベーションにより行動するが、最も重要なことは、あなたの姿勢が全てを決定する。
- もし前向きな考えができないなら、スポーツだけでなく、どのような分野でも成功はありえない。

元ノートルダム大学ヘッドコーチ  
ルーホルツ

# Today's Student-Athletes, Tomorrow's Leaders!!!

学生アスリートは未来のリーダー  
(国を背負ってたつ)

- **There are risks and costs to a Program of Action.  
But they are far less than long-range risks and  
costs of comfortable inaction !**